



委員会等活動成果

国際関係委員会 外国文献研究会

豪アクチュアリー会の月刊誌 "Actuary" 第 150 号(2010 年 6 月) 8 ページ
"Survey The Actuarial Pulse" より

2011 年 3 月 30 日

原文の入手方法

IAAust の HP (<http://www.actuaries.asn.au/>)
から Information and Knowledge→Actuary Australia Magazines→Archive Issues を選択
し、 Actuary Australia 2010 (June - Issue 150)をクリック。

オーストラリア・アクチュアリー会の月刊誌"Actuary"では、毎号、オーストラリアの
アクチュアリーに対してアンケート調査を実施し、その分析を掲載しております。ここでは、
2010 年 6 月のアンケートを選択し、翻訳しました。オーストラリア人のアクチュアリー「人
となり」がわかって、大変興味深い内容となっております。

今回の調査のきっかけは、私のかかわったプロフェッショナルリズム研修での議論、特に倫理と
規範についての論議でした。アクチュアリーが客観的にみて「誠実さ (honesty)」の解釈から逸
脱する可能性の最も高いビジネスの場面はどこかについて、明らかにしたいと思っています。
また、その逸脱の根拠にも興味があります。

いろいろな理由で人は自分が目標とする高い水準に到達できないことがあります。この調査
は、そんなことも教えてくれます。

次の表は、回答者の資格の分類です。以下の分析で使用します。

資格	人数
正会員	235
準会員	65
研究会員	30
その他	35

質問 1 (過去 3 ヶ月間に) 会議に遅刻したとき、本当の理由でない理由で言い訳をしたことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	76%	24%
準会員	82%	18%
研究会員	70%	30%
その他	91%	9%

この結果を見ると、本当の理由を言わないことは、非常識ではないようです。「はい」と答えた方々のコメントには、いろいろな弁明があります。●長い話を省略したい。●罪のないうそは必要悪だ。●個人的な事情を優先したものであり、考え方の違いだ。●重要なのは総合的な貢献度であって、(会議の時間中の) いつ貢献がなされたかではない。

「いいえ」と答えた方々のコメントは、一般に、正直であることや時間厳守することに対する個人的な責任感を述べたものや、常習的な遅刻はよく知られたものであり、言い訳する必要はない、といったものもありました。

質問 2 (過去 1 年間に) 仮病を使って欠勤をしたことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	91%	9%
準会員	75%	25%
研究会員	77%	23%
その他	100%	0%

皆が仮病を使っているわけではないと考えられていました。しかし、「仮病」を使う会員が全体の 12%もいるということは検討に値するものです。「はい」と回答した方々の中には、家族への責任といったもっともな理由を述べている方がいます。いわく、自分は病気ではなかったのだが家族の面倒、特に子供の面倒を見るために病欠とした、というものです。その他の「はい」と答えた方々のお答え振りはさすがしく素直であり、そのお人柄がうかがえます。●精神衛生上の休養日●その日は働きたくなかった●二日酔い。

当然のことながら、あなたが個人の請負業者であったり臨時雇用である場合、病欠は無給、つまり「自分のポケットに穴を開けただけのこと」になります。

質問 3 (過去 3 年間に) あなたはあなたの履歴書を修正して、役割、関与したプロジェクト、業績あるいは肩書きを一部省略するか、あるいは誇張したことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	90%	10%
準会員	83%	17%
研究会員	77%	23%
その他	79%	21%

この質問は、多くの問題を提起します。中には、実務的な理由から、長い職務経歴の詳細を省略することは良い工夫だと説明する人がいます。これは理解できます。履歴書が「マーケティング資料」とあるという参考文献はたくさんあります。私も 2009 年 5 月号のコラムで述べたように、そう思います。

回答者のうちの一名が指摘するように、「自分自身を売り込み、価値を最大化する」時に、事実とフィクションの境界をどこおくか、が問題となります。「失敗ではなく、強さを強調する」ことは理解できます。しかしレベルの低い経験で終わった最近の役割を書かないでおくことに問題はないでしょうか？大した役割もなかったのに大きなプロジェクトを率いたとする主張はどうでしょうか？ひとつのきちんとした回答は「最も魅力的で、それでもなお正直なケースを前面に出す」です。

他にも二次的な問題があります。暫くの期間、同じ会社、同じ仕事に従事してきたため、多くの方が最新の履歴書を持っていないことは、驚きです。中には求職をしているかどうかに係らず、一年に一度、業績を反映した履歴書を作成し、満足している人がいることを指摘することは意味があることです。いつか本当に必要になるときが来たときには、確かに役立ちます。

しかし、中には非常に幸運な会員もおられ、「些細な部分に少し詰め物」をする必要がなく、履歴書を「書き換える」必要もないようです。そういう方々は「本当に驚愕に値する業績を持っており、誇張して言う必要がな」く、その「業績自体が、明らかに自分自身を代弁」しているようです。なんと素晴らしい境遇であることでしょう！

質問 4 あなたは(昨年)、報酬を決める話し合いの際、数字を誇張するか、あるいは故意に違う数字を伝えたことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	98%	2%
準会員	94%	6%
研究会員	77%	23%
その他	94%	6%

当会には、提案をさし返して報酬交渉の可能性の限界まで追及する人は多くはないようです。もっとも、何人かの回答者が指摘するように、昨年の低迷した経済環境に理由があるのは確かかもしれません。私が気がかりなのは、自分の組織に議論の余地があるとは感じていない人の数です。●自分には報酬を交渉する権限はない。●提供されるものを受け取ります。交渉はしません。●今までに報酬を交渉できる立場に立ったことはありません。

さらに突っ込んで聞いてみたい質問ではないでしょうか。この質問に触発され、2名の方は「自分の給与は絶えず平均以下に抑えられているから、業績をいつも過大に強調する」、「後から考えればもっと強調すべきだったかも知れません。世の中には給料をもらい過ぎている人々もいるからね」と言っています。

質問5 (昨年)重大な問題あるいは間違いを見つけたけれども、問題を提起しないことにしたことはありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	98%	2%
準会員	94%	6%
研究会員	77%	23%
その他	94%	6%

予期されたこととはいえ、正会員の回答に「はい」が非常に少ないことがわかって喜ばしいところです。アクチュアリー会にあっても、またプロフェッショナルリズム研修にあっても、こういった状況で「挙手をする」ことが強調されています。以下の回答者のコメントもそのとおりになっています。最も普遍的な命題は、最初に発見したときに問題を潰しておかなければいつも「自分にお鉢が回ってくる」。「結局は露呈する」ので「モグラは発見のつど叩くのが簡単」であり「いつでも、悪い知らせは何でも真っ先に通知すべき」である。

質問6 (過去3ヶ月間)非現実的であることを承知の上でスケジュールに同意したことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	72%	28%
準会員	75%	25%
研究会員	60%	40%
その他	81%	19%

「はい」の回答が多いこと、特に研究会員に多いことは、興味を引きます。コメントを見ると2つのグループに分かれそうです。最初のグループは「楽天主義者」です。「希望的」、「上昇志

向の]、「勝手な解釈」と言った言葉が「非現実的な」スケジュールを弁護するために使われます。(一名の回答にあったように) 楽観主義が「大罪」ではないということは認めます。しかし楽観主義はそのうち誤解を招き、結果的に不正直になるとと思いますが？

2番目のグループは「被害者グループ」です。大勢の責任ある専門職の方々がスケジュールを「押しつけられ」、「選択の余地がない」と感想を漏らされるのを読み、非常に悲しくなりました。多くの方が権限は限定的だと感じており、実際にそうであることは確かなようです。

会社の内外を問わず顧客の要求は厳しく、(例えば6月30日のように)動かせない期限があることは理解します。しかし、非現実的なスケジュールに合意することは自分の評判を危うくすることでもあるのでは、と心配します。少なくとも被害者のうちの数人は受動的ではありません。よって少なくとも、「無視され」ようとも(2、3のコメントを加えて)自分の意見を表明することは価値があることかもしれません。

質問7(過去3ヶ月間に)結論に貢献できたはずなのに、会議に出席して沈黙を守り通したことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	68%	32%
準会員	62%	38%
研究会員	60%	40%
その他	69%	31%

質問8(過去3ヶ月間に)自分の支持しない結論または決議に対して(明示的にまたは沈黙することで)合意を表明した業務上の会議はありましたか？

資格	いいえ	はい
正会員	62%	38%
準会員	65%	35%
研究会員	60%	40%
その他	69%	31%

自分が支持しなかった決議に積極的に合意する人間は多くないと思います。どちらの質問も沈黙がテーマであり、どちらも三分の一以上が「はい」という回答なので、この質問は2つ同時に見てみましょう。コメントを多く戴きました。ほとんどのコメントが沈黙を弁護するかあるいは説明しています。

質問7に対するコメントのうちの大部分が、会議における行動パターンに言及しています。参加者の人柄や地位だけでなく、時間的制約、会議の前にすでに結論が根回しされている、などです。

多くの会員が「時に有益な情報は機密事項であり、議論の助けになるだろうけれども、自分の口から共有する権限はなく」、よって「他人の地位と信用を傷つけないようにしたい」気持ちがあつた、と知って安心しました。

多くの専門職が「重要な点はなかった」とか「決定はすでになされていた」、特に「(何か話すと)エゴと感情の世界になる」と感じているのを読んで悲しくなります。「コンセンサスが非常に重要」という一般常識は、さらに要注意です。確かに、チームによって一旦決定がなされれば、例えその決定が個人の見解と異なったものであつたとしても、チームを支援することは重要なことです。この質問に関する私の関心は、決定が下される前に、何度このアクチュアリーが黙り込んだか、です。多くの方々が、皆と戦うことは不可能であるから、戦いを選ぶことが重要と指摘されました。「自分なりの根拠を持つ」ことについてのあなたなりの基準が明快かを熟考する価値があるかもしれません。

「自分の懸念事項が以前無視された」時には特に、自分の信じることを述べるのは困難です。一名の回答者が雄弁にも「部屋の中に象がいればだれもが気がつく。わざわざ指摘してもらうことをいつも期待しているわけではない。その話題を取り上げる役はごめんだ」と言っております。

しかし、立ち上がって意見を言う価値のある決定かを考えることも価値あることかもしれません。もし受動的な態度が習慣になり、意見をいうべきときや、言うべき方法を忘れてしまったり、自分達にとって一番重要な事を見失ったとしたら、恥ずかしいことです。とりわけ「会議の決定者の倫理について、懸念を持っている」ならなおさらです。

質問9 過去12ヶ月間に、自分の責任であるにもかかわらず、自分の懸念事項や限界を詳細に述べず、(例えば、見通し、前提条件、目的、結果の)報告に満足できなかったことがありますか？

資格	いいえ	はい
正会員	91%	9%
準会員	89%	11%
研究会員	77%	23%
その他	100%	0%

行動規範で制約されているところですから、質問5のように、「はい」の回答がずっと少ないのにはほっとします。もう少し「はい」という回答の中身を見てみたいと思いましたが、あまり多くのコメントがありませんでした。少ないながらも「はい」と回答した方には、重要な報告であるにも係らず、個人的な説明責任に不満足を感じたとする傾向があります。これはおそらく良いことでしょう。

ひとつ明記すべき重要なことは、「警告、警告、警告」と繰り返すことは、不確実性、不合理な前提条件および専門職の限度を覆い隠す手段として、何時も十分なわけではない、ということです。警告する場所、前提条件および報告書の信頼度が重要なのです。もしこの警告が報告書中の表や数値といった見えないところに埋没しているなら、報告書の結論と結果が間違っ使用される危険性が増えるでしょう。

質問10 あなたは、以上の質問に回答するとき、心地良くないと感じましたか？

資格	いいえ	はい
正会員	85%	15%
準会員	85%	15%
研究会員	83%	17%
その他	100%	0%

この質問は、今回の調査の第2の目的を達成できたかを評価する基準になるだけでなく、より全体的な回答を得る機会となりました。多くの方々からの「考えるきっかけになった」とか「自身の決定」のうちのいくつかを再考するきっかけになった、というコメントを戴くことができ満足です。このコメントから、参加者の見解にはさまざまなものがあると知らされます。

他人が「答えは黒か白ではない」と感じているときに「専門家たるものノーと答えることができなくてはならない」と感じた伝統的な考え方の方もいます。一名の方は「楽しかった」、一名の方が「退屈で関心を失った」と感想を述べられました。ますます会員は多様になり異なった価値感と倫理感が同居することになるでしょう。アクチュアリー会の評価を高める最低限の誠実さを保ちながら、この多様性を整合していくことができると思います。

最後に、プライバシーに懸念を感じられた回答者の皆さんに。回答は匿名で戴き、将来も個人が特定できないようになっている事を保証いたします！

さらにお考えになったこと、観察およびご意見を歓迎します。特にある回答者の最後のコメント「今回の質問で考えるところがあった。真に倫理的な行動をすることは独りよがりになり、長期に見れば悪い結果になっていないか」に対するご意見を歓迎します。



マーティン ・ マルケアー

mulcare@optusnet.com.au

アシスタント：デイブ・ミラー

david.millar@au.ey.com

Actuary Australia (June 2010 Issue 150) page 8~10

http://www.actuaries.asn.au/Library/AA_JUN2010_WEB.pdf